

新たな道路交通調査体系による 今後の取組

令和4年11月21日

国土交通省 道路局 企画課
道路経済調査室

新たな道路交通調査体系による今後の方針(案)

- ・ビッグデータを活用した時間帯別交通量によるきめ細かな分析の実施を拡大していくとともに、主要な道路だけでなく生活道路における渋滞や事故の対策を推進。
- ・地域別、日別、時間帯別、車種別OD表の作成等の新たな取組により、道路空間の効率的な利活用や政策検討を推進。



新たな道路交通調査体系による今後の取組

政策立案

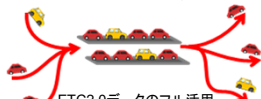
- 道路の計画、整備、管理等の政策検討の基礎資料として活用
- EBPMの推進 等



OD表の精度向上構築

日常・平時

- 詳細なODデータを活用し様々な地域で通勤、観光、大規模イベント等の交通状況に応じた効果的な道路交通マネジメントを展開
- 大規模更新、災害等が与える社会的影響を軽減するため、迂回誘導等の交通マネジメントを高度化
- ICTの進歩や普及を踏まえた機動的な料金の導入を検討 等



朝ピークOD 夕方ピークOD 観光等OD



渋滞対策

- 観光時間帯や旅行日の需要分散
- 時差出勤や経路変更促進
- 工事に伴う規制時間帯や迂回経路の検討およびシミュレーション
- 公共交通機関の利用促進施策 等



モーダルコネクト

- 自転車や歩行者データ等を活用したシームレスな移動を実現する交通拠点の計画 等



交通安全

- 生活道路も含め、ETC2.0データ等を活用した潜在的危険箇所の見える化と交通状況のモニタリング



(例) 交通安全対策の取組事例(ゾーン30プラス)